

令和2年度 中部森林管理局 国有林野等所在市町村長有志協議会 連絡協議会
意見交換の概要

開催日時：令和2年12月1日（火） 13:30～17:00

開催場所：中部森林管理局 3階 大会議室

出席者：南砺副市長、木島平村長、大町市農林水産課長補佐、上田市森林整備課長
伊那市長、木祖村長、高山市長、下呂市長、中津川市長、設楽副町長

以上10地区代表ほか9名出席

発言要旨	回答
1 森林整備等について	
<p>① 山地災害が多発しているため、未然防止策として間伐等の森林整備や林道整備をしていただきたい。</p> <p>② 治山だけではなく砂防と連携して安全確保をお願いしたい。7月豪雨に際しても大きな被災がなかったのは、継続して治山工事、砂防工事が行われている結果だと思う。事業の継続をお願いしたい。</p>	<p>① 優先度が高いところから森林整備、治山対策をしっかりと進めてまいりたい。</p> <p>② 引き続き、安全確保に向けて取り組んでまいりたい。</p>
2 国有林野の利活用について	
<p>① 借地内の災害復旧について、現況を早急に把握できない場合及び災害査定を速やかに行う必要があることから、土地使用及び立木伐採に関し特段のご配慮をお願いしたい。</p>	<p>① 緊急な対応が必要な場合や、お困りの点や要望等を挙げていただいて、対応できるものは対応してまいりたい。</p>
3 官行造林について	
<p>① 双方の算定額の試算に開きが出ていることから、情報をよりオープンにさせていただきたい。</p>	<p>① 林野庁通知等に基づき算定しており、お伝えできる情報についてはお伝えし、契約終了に向け協議をさせていただきたい。</p>
4 松枯れについて	
<p>① 松くい虫の被害がかなり広がっている。樹種転換を進めていきたいが、抵抗性マツの開発状況について伺いたい。</p>	<p>① 抵抗性マツについては随分前から生産されている状況。地域の苗木需給動向については今手元に資料がないので、後で調べて回答させていただく。</p>
5 鳥獣被害等について	
<p>① ツキノワグマへの対応について、各県の状況をお聞きしたい。県によって状況が異なるため、国全体のルール等があるのか知りたい。</p>	<p>① 環境省と都道府県との間で、各県内のクマの推定頭数の12%を上限に捕殺して良いという取り決めになっている。 クマはワナに簡単に捕まってしまうこ</p>

<p>② ヤマビルが問題になっており、地球温暖化や大型野生動物の分布拡大により、被害が広がっている。地元では、ヤマビル生息地での仕事が敬遠される状況になっている。住民からの陳情が寄せられ、忌避剤散布に取り組んでいるが、林野庁で実態把握と指導をお願いしたい。</p>	<p>とから、ワナでの捕獲は禁止されている。 クマと人が共生可能な環境を作ることが大事であり、針広混交林化を進めるとともに、クマの臆病な性格を踏まえ、住宅地においては隠れることのできる藪等の刈り払いや、柿の木を伐倒するなどの取組が大事である。</p> <p>② ヤマビルに関し、イノシシやシカに付着して移動していると考えられることから、シカ対策を進めることが根本的な対策と考えられる。</p>
--	--

6 技術支援・人材育成について

<p>① 人材育成が大きな課題であり、人材育成の考え方について詳しく説明をお願いしたい。</p> <p>② 林業の担い手不足について、若い世代に農業、林業に就業者が少なく、儲かる林業にならないと若い世代に勧められない。高校を選ぶ前に最先端の林業技術等を子供に知ってもらい、職業選択の一助としていただきたい。</p> <p>③ 森林経営管理制度により市町村でも民有林を施業していかなければいけないが、小さな市町村では林務専門の担当者がいないため、各種研修等ご支援をお願いしたい。</p>	<p>① 緑の人づくり総合支援対策や、現場技能者キャリアアップ対策等に取り組んでいる。林業従事者の給与水準の確保が必要であり、一定の給与水準が確保できないと、技術を習得している者が他業種に転職してしまう。そのため、林業の生産性を上げることで儲かる林業になるよう、取組を進めてまいりたい。</p> <p>② 現地検討会において、あるいは体験学習会等について、小中高大学生それぞれ年代に応じて対応しつつ参加してもらっている。技術交流発表会でも学生等の交流を進めている。また、職員等による小学校等で講義をすることもあり、こうした取組を更に進めてまいりたい。</p> <p>③ 全国的にも人材育成が間に合っていない状況。国有林が行う現地検討会等を行う際にはお声がけさせていただきたい。基本的な内容から先端的な内容まで、ニーズに合わせて実施してまいりたい。</p>
--	---

7 豪雨災害について

<p>① 復旧の早期実現、予防治山の実施をしていただきたい。作業道の適正な管理をしていただきたい。今回被災して感じたことは、谷沿いで土石流が多く発生したことで、治山堰堤の設置はもちろん、樹種転換等により谷沿いの強化をお願いしたい。</p>	<p>① 谷沿いで土石流が発生したことについて、発生源で流木にならないような対策が必要である一方、土石流の勢いが弱まる箇所では、沢沿いの立木が勢いを止める働きもある。場所をきちんと見極めつつ、砂防など関係機関と連携しながら、住民に縦割</p>
---	---

② 国有林においても山腹崩壊が発生し、土砂の流出が発生した。今後も豪雨の際に被災が危惧されるため、国有林野内の治山事業の推進にご配慮をお願いしたい。

③ 7月豪雨災害で被災したが、林野庁のこれまでの施策は災害復旧が主であった。今回、国土強靱化の取組のもとで、予防のための施策が重要であると考えます。国土強靱化の15兆円の扱いについて、林野庁としてしっかり方向性を定めていただきたい。市町村としても、できることは行っていくので、国土強靱化にしっかりとした足跡が残せるよう努力をしていただきたい。

りを意識させないよう進めていきたい。

② 国有林内で発生した崩壊については国の責任として、計画的に復旧していく。

③ これまで災害復旧に取り組んできたところであるが、治山対策で大切なのは予防であると考えている。地域交付金に予防対策のメニューを全て含めていたが、補助事業でも治山事業として緊急予防対策事業ができるようにしているので、補正予算が編成された場合には、積極的に進めてまいりたい。雨の降り方が変わっている中、国土強靱化の5箇年対策としても、予防対策にしっかり取り組んでまいりたい。